

## 第II章 都市づくりの課題



絵：萬谷 恵大

## 第1節 都市づくりの現状と課題

幕別町は日高山脈を遠くに仰ぎ、アイヌ語で「マクウンペツ（山際を流れる川の意）」といわれるように、母なる川十勝川、清流札内川、サケが遡上する猿別川、野鳥が群れ飛ぶ途別川が流れ、どこまでも続く広大な畑など「豊かな自然と大地」をイメージする素晴らしいまちです。

これまでは、人口増加に伴って市街地の拡大を図り、快適な都市生活に必要な施設整備を進めてまいりましたが、近年では人口に減少傾向が見られ、市街地の空洞化、自然災害に対する脆弱性、既存にある道路や公園などの社会基盤施設の有効活用や維持管理のあり方など、都市全体の安全性や活力度、都市運営などに関わる課題が複雑化してきており、これら諸問題の解決を目指していく必要があります。

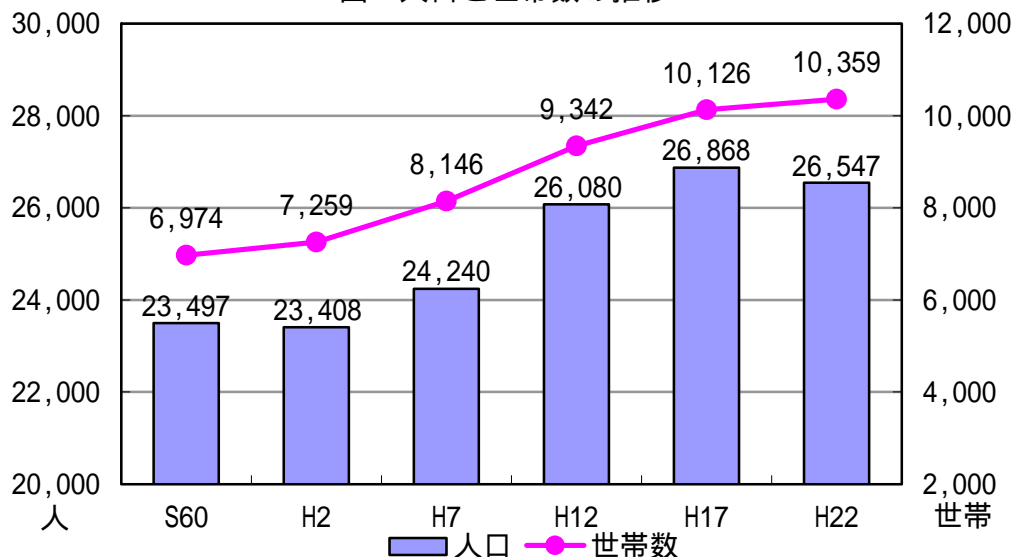
### 少子高齢化に対応した都市の形成

幕別町の人口は、増加傾向で推移していたものが平成17年にその伸びが鈍化し、近年では横ばい傾向から減少傾向を示すなど、わが国の人口推移と同様の傾向を示しており、今後においても少子高齢化の更なる進行が予想されます。

また、高齢化に伴い住民の多くがこれまで以上に利用しやすい公共交通機関の整備や、地区によっては日常の買い物など生活利便性の向上について必要性が高く求められています。

このことから、これまで以上に時代の変化と住民のニーズをしっかりと捉え、住みやすく、魅力と活気にあふれ、持続可能なまちづくりを目指す必要があります。

図 人口と世帯数の推移



参考資料：国勢調査（旧忠類村を含む）

町民アンケートより  
 Q：都市計画マスタープラン見直しにあたって新たに加える内容は？  
 A：「少子高齢化・環境問題に対応し公共交通の利用や歩いて暮らしやすいまちづくり」が25.3%と最も必要と答えています。

## 自然環境との共生と安全・安心な都市の形成

幕別町には十勝川とその支流の河川が複数流れ、川に挟まれた平地や丘陵地に広がる豊かな大地では、農業が盛んに行なわれています。河川沿いに形成されている市街地は、四季折々に美しい風景に彩られた北海道らしい自然に恵まれた素晴らしい環境にあります。

こうした緑豊かな自然環境との共生を目指して、市街地を囲む河川と丘陵地の緑を保全するとともに市街地内の緑化に努めて、水と緑が豊かな潤いのある都市づくりを進める必要があります。

また、幕別町周辺では、平成 15 年の十勝沖地震をはじめとした大きな被害を及ぼす地震が発生しているほか、過去には記録的な集中豪雨による浸水被害が発生するなど、自然災害による被害に備える必要があります。

このことから、住民の防災に対する意識が徐々に高まってきており、常に安全で安心して生活できることが求められていることから、災害に備えた都市づくりを進める必要があります。

## 既成市街地における活力低下への対応

新たに形成された市街地では人口が増加している一方で、既成市街地においては人口の減少傾向や少子高齢化が進行しており、その影響は様々なところに現れています。

J R 駅周辺の商業地では、後継者不足や店舗の老朽化、更には空き店舗が見られるなど、地域活力の源となる商業機能の低下が見られます。住宅地では、低・未利用地の存在や空き地・空き家が顕在化してきたことにより、快適な住環境の維持に不安が聞かれるほか、地域コミュニティを維持することの困難さなど、地域活力の低下が懸念されています。

このことから、今後、さらに進行することが予想される人口の減少傾向や少子高齢化を見据えて既成市街地の活性化を図り、活力ある市街地に再生する必要があります。

## 社会基盤施設 等の有効活用と適正管理

幕別町は、昭和 45 年 12 月に区域区分の当初決定を行なった以降、これまで順次市街化区域の拡大を行なってきたおり、現在では幕別、札内の両地区で約 784ha の市街化区域を有しています。

この間、市街化区域の拡大に合わせ計画的に道路や公園、上・下水道など基幹的な社会基盤施設の整備を進めてきたほか、学校やコミュニティ施設、福祉施設、余暇活動を楽しむ生涯学習施設など、各種公共施設について適正に配置することに留意しながら整備を進めてきました。

しかしながら、人口の減少傾向や市街地の空洞化が進行することにより、上・下水道施設などの効率性の低下や、厳しい財政状況に伴う適正な維持・管理の確保など、様々な課題が山積しています。

このことから、これまで整備してきた社会基盤施設や各種の公共施設を活かしながら、将来にわたり効率的・効果的な維持管理や施設の更新が求められています。

低・未利用地  
低利用地  
市街地内に存在し、宅地として利用するための道路、上・下水道などのインフラ整備が整っておらず、資材置場、駐車場などの用に供されている土地。

未利用地  
市街地内に存在し、宅地として利用するための道路、上・下水道などのインフラ整備が整っていないながら、建築物の建築が行なわれていない土地。

### 【住民の声】

- ・地元の商店街の活性化が重要。
- ・市街地の空き地・空き家対策が必要。

社会基盤施設  
国民福祉の向上と国民経済の発展に必要な公共施設を指し、インフラストラクチャー(略称:インフラ)とも言います。

道路、公園、河川、空港、港湾、上・下水道、学校、病院、公営住宅、電気、ガス、通信など、社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成する総称であるが、一般的には、国や地方自治体を実施する公共事業で整備されたものを指します。

また、過去に整備された各種の社会基盤施設を総称して、「インフラ・ストック」と表現されます。

## 第2節 都市づくりの視点

幕別町が、住民参加によって都市計画マスタープランを定めるに当たっては、その基本方針を明らかにし、将来都市像及び都市づくりの方針を住民及び行政の共通の目標としておくことが重要です。

そして、この「幕別町都市計画マスタープラン」を効果的かつ体系的なものとするためには、まちづくりの「基本理念」や「基本目標」を明確に掲げ、それらを都市計画の各部門、各地域の計画に十分反映させるとともに、各種計画と有機的に関連づける必要があります。

第5期幕別町総合計画は、「人と大地が躍動し みんなで築く ふれあいの郷土」を町の将来像として、新町の一体感の醸成や均衡ある発展を目指すことを基本としています。

### 第5期幕別町総合計画の将来像と基本目標

将来像：人と大地が躍動し みんなで築く ふれあいの郷土

基本目標：1．ともに考えともに創る活力あるまちづくり

2．農業を核に競争力のある産業のまちづくり

3．笑顔ゆきかう健康とやすらぎのあるまちづくり

4．文化の香る心豊かな学びのまちづくり

5．自然とともに生きる環境にやさしいまちづくり

また、平成15年の策定後、少子高齢化の進展や地球規模の環境問題、地方分権の推進等、社会構造に急激な変化が生じており、こうした変化に対応した国の施策動向等を踏まえながら、見直しを進める必要があります。

「幕別町都市計画マスタープラン」は、上記総合計画を基本とし、近年における国の施策動向等を踏まえながら改訂しました。



町の将来像  
「人と大地が躍動し  
みんなで築く ふれあいの郷土」は、旧忠類村と合併した際に策定した新町まちづくり計画の「新町の将来像」を引き継いだものです。

この将来像には、「緑の大地に、人と人とが、子どもやお年寄りまでが、住民と行政がそれぞれ一体となって、知恵を出し合いながら、農業をはじめとする産業が躍動する、人にやさしい、住みよい豊かな郷土を築いていく」という思いが込められています。

## 集約型の都市づくり への転換

これまでの都市づくりは、人口が増加することを前提に進められていましたが、近年では日本の人口が減少傾向へ向かっており幕別町も同様の傾向を示すなど、少子高齢化の進行が予想されています。

今後は、都市生活の拠点に都市機能を適正に立地させ、人口の減少傾向や少子高齢化に対応した「集約型の都市づくりへの転換」を目指した、持続性のある住み良い都市づくりを進める必要があります。

## 安全・安心への更なる配慮

幕別町は、過去に地震や大雨による浸水被害等に遭っており、自然災害に対して備える必要があります。一方、防犯や交通安全等の日常の安全・安心についても、子どもの犯罪被害への不安や高齢者等の安全・安心な生活環境の確保が必要となっています。

また、これまで整備されてきた社会基盤施設や各種の公共施設が更新時期を迎えつつあり、効率的・効果的な維持管理や施設の更新が新たな課題となっています。

こうしたことから、地震や浸水による被害に備えた災害に強いまちづくりや、安全・安心で安定した住民生活の確保、社会基盤施設や公共施設の適切な維持管理と計画的な更新等により、安全・安心な都市づくりを進める必要があります。

## 環境への配慮や負荷の少ない都市づくり

近年、地球温暖化、森林の減少、大気や河川の汚染による生活環境の悪化など、地球規模の深刻な環境問題が生じています。特に、地球温暖化は台風の大型化や集中豪雨など異常気象の原因となっており、人的・経済的被害を引き起こす要因ともなっています。

地球温暖化の原因となっている二酸化炭素などの温室効果ガスは、地球規模での排出削減が求められており、本町においても「幕別町地域省エネルギービジョン」や「幕別町地域新エネルギービジョン」を策定し、地球温暖化防止に向けた取り組みを進めてきました。

こうしたことから、自然環境の保全や緑化、リサイクルや省エネ・新エネの推進など、持続可能な循環型まちづくりへの転換や自然と調和した低炭素都市づくりを進める必要があります。

### 【住民の声】

- ・ 歩行者、自転車、高齢者に優しい道路整備を期待します。
- ・ 車いすやベビーカーなどが通りやすい歩道の整備が必要。

集約型の都市づくり  
人口減少・超高齢社会を迎えるにあたって、従来の市街地拡大の方向性を改め、既成市街地を有効に活用するため、新たに必要となる各種都市機能を集約化し、徒歩生活圏内にある都市生活の拠点を公共交通等で結ぶことで、自動車交通に頼らずとも都市生活が持続可能となるような都市づくりを指します。

### 【住民の声】

- ・ 新たな公共施設の整備より、既存施設の維持・修繕が必要。

低炭素都市づくり  
地球温暖化防止対策として、CO<sub>2</sub>など温室効果ガス排出量を抑制する取り組みが行なわれていますが、公共交通機関の整備や都市の緑化、集約型の都市づくりなどにより、都市活動による環境負荷が小さくなるように都市構造を転換する取り組みを指します。